

みずほCustomer Desk Report 2019/11/18 号(As of 2019/11/15)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	108.62
TKY 9:00AM	108.50	1.1020	119.55	GBP/USD	AUD/USD
SYD-NY High	108.86	1.1057	120.32	1.2881	0.6786
SYD-NY Low	108.38	1.1015	119.47	1.2919	0.6822
NY 5:00 PM	108.77	1.1053	120.25	1.2868	0.6781
				1.2903	0.6822
NY DOW	28,004.89	222.93	日本2年債	-0.2000	0.00bp
NASDAQ	8,540.83	61.81	日本10年債	-0.0700	1.00bp
S&P	3,120.46	23.83	米国2年債	1.6132	2.38bp
日経平均	23,303.32	161.77	米国5年債	1.6526	2.50bp
TOPIX	1,696.67	12.27	米国10年債	1.8351	1.38bp
シカゴ日経先物	23,380.00	215	独10年債	-0.3365	1.50bp
ロンドンFT	7,302.94	10.18	英10年債	0.7260	1.90bp
DAX	13,241.75	61.52	豪10年債	1.1570	▲2.45bp
ハンセン指数	26,326.66	2.97	USDJPY 1M Vol	5.40	▲0.35%
上海総合	2,891.34	▲18.53	USDJPY 3M Vol	5.85	▲0.28%
NY金	1,468.50	▲4.90	USDJPY 6M Vol	6.40	▲0.15%
WTI	57.72	0.95	USDJPY 1M 25RR	-1.05	Yen Call Over
CRB指数	181.00	0.91	EURJPY 3M Vol	6.45	▲0.19%
ドルインデックス	98.00	▲0.16	EURJPY 6M Vol	6.84	▲0.12%

東京	東京時間のドル円は108.50レベルでオープン。オープン直後108.45まで下落する場面があったものの、その後は、株価が堅調に推移する中ドル底堅い動き。また、実需が集中する5・10日であり正午にかけて一時108.63まで上昇。その後は108円台半ばを中心とした狭いレンジ幅となり108.58レベルで海外へ渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、108.58レベルでオープン。ロンドン時間引けにかけて米ロ商務長官が「米中合意はするだろう」とポジティブな発言をしたことを受け、108.77まで上昇。そのまま高値で推移し、108.73レベルでNYへ渡った。ポンドドルは、1.2878レベルでオープン。目立った材料も見られない中、1.2868-1.2887の狭いレンジで推移した後、1.2879レベルでNYへ渡った。(ロンドン・トルフィー 00531 444 179 永井)
ニューヨーク	外「米国家経済会議委員長が「フェーズ1の同意で最終段階にある」と発言したことや、ロ商務長官が「米中の通商協議がほぼ確実に合意されるだろう」との見方を示したこと、海外市場で円売りが強まり、108.77まで戻し、108.73レベルでNYオープン。朝方は、注目の米10月小売売上は、ヘッドラインが予想を上回ったものの、除自動車予想を下回る結果、11月NY連銀製造業景気指数が予想を下回る結果と、強弱混在の結果にドル円の反応は限定的となる。続いて発表の米10月鉱工業生産が予想以上に悪化したことから108.65まで下押しするが、米中通商協議に対する期待から円売りが継続し、108.86まで上昇する。午後は狭いレンジでの推移が続き、108.77レベルでクロスした。一方、海外市場のユーロドルは狭いレンジでの推移が続き、1.1034レベルでNYオープン。朝方発表された米経済指標の内容が強いものではなかったことから、ドル売りが優勢となる中、米中通商協議に対する楽観的な見方からユーロ円が上昇する動きに、ユーロドルも1.1055まで上昇する。その後一旦下押しするが午後に入り再び1.1057まで上昇する。終盤に掛けては、狭いレンジでの推移が続き、1.1053レベルでクロスした。(NY井上)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

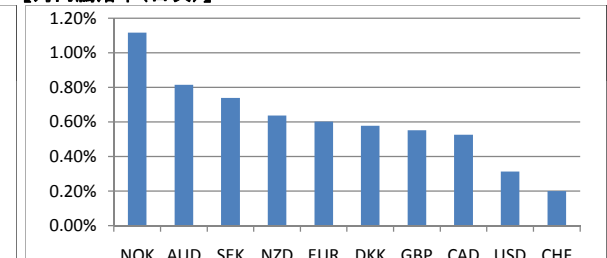
担当: 光石・上地 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
11月15日	13:30	日 鉱工業生産(前月比/前年比)・確報	9月 1.3%/1.7%	-
	19:00	欧 CPI(前月比/前年比)・確報	10月 0.1%/0.7%	0.2%/0.7%
	19:00	欧 コアCPI・確報	10月 1.1%	1.1%
	22:30	米 NY連銀製造業景気指数	11月 2.9	6.0
	22:30	米 小売売上高(前月比)・速報	10月 0.3%	0.2%
	22:30	米 小売売上高(除自動車/前月比)・速報	10月 0.2%	0.4%
	23:15	米 鉱工業生産(前月比)	10月 -0.8%	-0.4%

【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
11月19日	02:00	米 マスター・クリーブランド連銀総裁 講演	-	-

【ドル円相場】

【対円騰落率(日次)】

【マーケット・インプレッション】 ドル円はレンジ相場継続か。

先週の為替相場は、トランプ米大統領が「米国は中国と関税の撤回で合意していない」と発言したことにより、追加関税を段階的に撤廃する方向を織り込んでいた米中貿易協議の先行きに不透明感が増し、108円台前半まで円高が進行する調整色の強い展開となった。今後もやはりこの米中貿易協議に係るトピックが相場動向を占う上での中心的な材料となり、目下のところは追加関税第四弾の発効期限である12月15日に向けて、米中間で部分合意に至るかが最大の焦点となろう。部分合意については、市場にここまで楽観論が定着している状況下、破談とすることは米中両国にとってダメージが大きすぎることを勘案すると、合意の範囲には不確定要素が多いものの、部分合意それ自体には形を作ってくるものと予想している。また、来年に大統領選を控えているトランプ大統領としては、任期中の株価の大幅下落は避けたいものと思われ、こうした要素を勘案すると、ドル円の値下は限定的と見ている。一方で、米中貿易協議については、目先注目が集まっている合意プロセスは、飽くまでも部分合意であり、本問題が米中の覇権争いの一側面と考えると、第一段階の部分合意がなされても、次の段階の合意に向けては、米中双方が再び難しい交渉を強いられることは想像に難くなく、素直に緊張緩和となることはないと考え、上値の余地についても限定的、しばらくは108円～110円をコアレンジとするレンジ相場に落ち着くものと予想している。ただし、米中貿易協議が破談となり、追加関税が発動される事態となると、リスク回避姿勢の高まりから大きく株価が下落、それに伴いドル円、クロス円も下落するという昨年末を彷彿とさせる値動きに陥る可能性が高く、ダウンサイドリスクへの警戒は怠らないようにしたい。(光石)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ベア	ブル	ブル	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷浦
ブル	ブル	ベア	ベア	ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ベア

ブル	ベア
10	10